

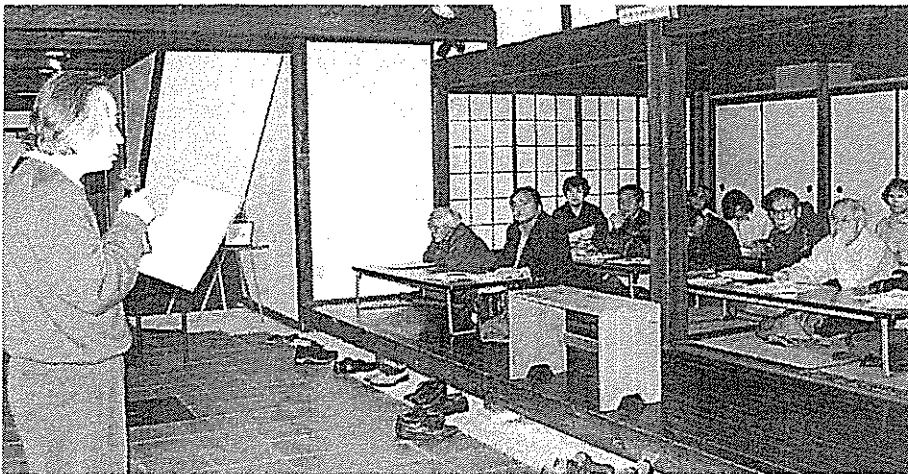
# 再生願い市民案

## 行政へ話し合い要望

### JR奈良駅舎

など様々なアイデアが盛り込まれており、同センターでは奈良市など行政に対して話し合いを働きかけていく。

奈良まちづくりセンターは奈良市中新屋町の奈良町物語館で16日、「よみがえれJR奈良駅舎」を開き、保存が決まった奈良駅舎（奈良市三条本町）の活用方法について、市民から寄せられた五つの案を発表した。市民案には観光情報センターやライブハウス、奈良産の土産物店



提案者の発表を聞く参加者ら—奈良市中新屋町の奈良町物語館で

### 観光情報センター

1級建築士の上嶋晴久さんから6人は、観光情報センターとNPOセンターを置き、県内の情報を発信できる拠点に、と提案した。舞台を設置しイベント会場としても使う。

### 「駅・まち・人」展

大和郡山市の清水伸朗さんは、「鉄道・駅・ま

ちと人びと」をテーマにした展示コーナーを提案。同駅の昔の写真や歴史資料、市民の絵画や詩、写真などを紹介する。若者に駅や町の歴史を伝え、交流の場にする。

### 人が集う芝生広場

住民主体の町づくりを考える建築家グループ「新建築家技術者集団奈良支部」は、奈良の玄関口として人が集う広場つ

くりを提案。駅舎周辺を芝生広場にし、一息つけるいすとテーブルを置く。外国語対応の情報センターも備える。

### ライブハウス

デザイン協会理事長の横井紘一さんと娘のあやさんは、アマチュアの若者ミュージシャンに無料開放するライブハウス「明日歌」を提案。ライブの客がくつろげるように、奈良の菓子などを出

### 「ならもの」土産館

横井紘一さんらの二つ目の提案は、奈良の人がデザインした「ならもの」を売る店。赤膚焼や一刀彫、鹿角細工などを並べる。吉野間伐材の遊具や奈良晒を使った小物など奈良産の生活用品も販売する。

これら5案は、同センターの利用方法の公募に対して2団体と2個人から寄せられた。発表会には約35人が参加し、提案者がそれぞれのアイデアを説明した。

同センターの黒田陸子理事長は「皆の熱い思いが伝わってきた。駅舎の活用について行政からの発表を待つだけでなく、自分で考え、声をあげることが大切」と話している。

発表会では、淡野明彦・奈良教育大教授の講演もあり、「駅からまちづくりを考える」をテーマにヨーロッパの事例を報告。「駅を、鉄道の乗り降りをするだけでなく、遊んだりパーティーを開くなど生活のひとつの中心にしていくべきだ」とアドバイスした。

すカフェも運営する。